

教育委員会会議の概要（令和6年7月臨時会）

- ◆ 日 時 令和6年7月12日（金）午前9時00分から午前10時52分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	天 野 元	出席
委員・教育長職務代理者	花 渕 浩 司	出席
委 員	川 又 政 征	出席
委 員	後 藤 由 起 子	出席
委 員	山 田 理 恵	出席
委 員	庄 司 弘 美	出席
委 員	長 谷 川 真 里	出席

◆ 会議の概要

1 開 会

2 議事録署名委員の指名 山 田 委 員

3 協 議 事 項

（1）令和7年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長、教育センター担当指導主事 説明）

【国語】

教 育 長 それでは、「国語」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

教育指導課長 それでは、担当指導主事から説明する。

指 導 主 事 中学校「国語」では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1）社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

（2）社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

（3）言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

以上3点を目標としている。

協議会において取りまとめた中学校「国語」の全発行者の特長は、別添2の27ページにお示ししている。

主な特長について、まず、A者は、地元の人材を取り上げた題材が含まれており、地域に根ざした題材の他に、国際的な内容も取り上げるなど、幅広く国内外について

学べる題材設定になっているということである。

次に、B者は、古典文学や芸能に関する内容や挿入される写真などが豊富で、我が国の伝統文化に親しむことができるように配慮されているということである。

次に、C者は、「未来への扉」を通して、実生活と学習内容を関連付けながら、現代社会の課題について考えを深め、これからの生き方を見据えながら学習できるように工夫されているということである。

次に、D者は、教科書のはじめに学習の進め方が掲載されており、小学校や中学校の学び、発達段階に応じた学びのつながりに配慮されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何か質問はあるか。
(質疑なし)

教 育 長 なければ、各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたい。

山 田 委 員 A者は、「学びナビ」があり、本文に入る前に「学びナビ」で何を学ぶかを確認し、その後、本文に入る流れになっている。その後の「みちしるべ」でその章の内容を捉え、理解を深め、自分の考えをまとめて話し合うという手順が示されている。巻末に言葉や文法についての説明がまとめて掲載されているほか、「言葉の自習室」に、古典文学や伝統芸能、原稿用紙の使い方、アイディアの出し方などをまとめてあり、より深い学びができるように工夫されている。

B者は、はじめに「思考の方法」が載っていて、各種チャート図、ステップチャート、くらげチャート、フィッシュボーンなどで考え方をまとめる方法が示されている点分かりやすくよいと思う。また、漫画や広告など現代的な資料に加え、百人一首や、日本文学名作集の時代変遷、著作権、メールの書き方など様々な情報が載っていて、より深い学びができるように工夫されている。

C者は、読むこと、書くこと、聞くこと、古典などがバランスよく配置されている。読むことと書くことが関連して同じ章にあり、つながりを感じつつ学習ができるようになっている。本文のはじめのところに目標が記載されていて、その後、手引きがあり、目標と内容のつかみ方などについて丁寧に順を追って説明している。また、情報の信頼性の確かめ方として、インターネット上の情報源の信頼性について言及していることや、最近の話題として新聞やメディアをどう読むかということが掲載されており、非常に重要なポイントであると思った。

D者は、最初の「思考の地図—思考の旅に出かけよう」に、各種チャート図がまとめてあり、マッピング、比較、分類、分析、根拠の確認など、まとめる手法が載っていて、課題の解決や自分の考えをまとめる方法に役立つ。また、「声を届ける」で音読や発表の仕方を説明していて、また、書き留める記録の仕方や調べ方などの説明があるのも特長としてよいと思った。

庄 司 委 員 A者は、「学びナビ」で何をどう学ぶのかが示されており、学習に見通しを持って取り組めるよう工夫がされている。また、SDGsの題材を切り口に、他の教科、また総合的な学習との関連も図りやすいように工夫されていると感じた。

B者は、「学びの道しるべ」で学習の流れが示されていて、主体的に取り組みやすいと思った。「学びを振り返る」では、振り返りのキーワードが示されており、理解が深まるよう、学びを広げられるように工夫されていると感じた。1年生ではスピーチ、2年生ではプレゼンテーション、3年生でパブリックスピーキングと、自分の思いや考えを伝える力が学年ごとに高められるような工夫も感じられ、よいと思った。

C者は、題材ごとに「てびき」の中で「見通す」から「振り返る」まで示されているので、主体的・対話的で深い学びにつながる工夫がされていると思った。「未来への扉」では、現代社会の課題に興味・関心を持ち、実生活に学習した内容が生かされるような工夫があると感じた。

D者は、「学習の見通しをもとう」で、1年間でどのような学習をし、どのような力を身に付けるのかということが見通せるように細かに示されている。また、他の教科やSDGsとの関連も示されているため、生徒が意識して取り組むことができると感じた。「学びへの扉」には、学習内容や手順が示され、ICT活用の頻度で深い学びにつながる工夫があると感じた。

長谷川 委員 A者は、言葉を大切にしているという印象を持った。巻頭に「言葉の地図」があり、国語科の学び方に加えて、他領域や他教科との関連が理解できるように工夫されている。文法の学びも充実していると感じた。本の紹介があり、いわゆる読書の大切さも伝わると思う。

B者は、3学年を通して「思考の方法」があり、どのように学ぶことができるのかがよく分かるように整理されている。先ほども出たが、1年生のスピーチ、2年生のプレゼンテーション、3年生のパブリックスピーキングという、状況や難しさに応じて、学年に対応して紹介されている。日本人は発信力、表現力が弱いのではないかと思うので、そのような力を高めるよい教材だと思う。

C者は、3学年を通して「未来への扉」がはじめにある。こちらで実生活の問題とつなげながら考えていくことができると思う。それ以外に、古典に関して充実していると感じた。

D者は、テキストの後に、学び方が示されているのだが、自主的な学び及び学級の中での対話的な学び、両方に対応できるように、非常に充実した内容になっていると思う。

花 淵 委員 A者は、気仙沼を題材とした説明文、宮城出身のパラアスリートや国際的な舞台上で活躍する文化人のエッセイなど、地域に根差した題材まで幅広く設定されていると思った。

B者は、3年間を通して「思考の方法」を提示して、繰り返し使用する活動場面を設けており、他教科でも生かせるように工夫がされていると思った。

C者は、基礎力を取り立てて鍛える教材、「学びを支える言葉の力」が配置され、前後3領域の教材では、習得活用が可能な言語活動が展開できる内容になっていると思った。

D者は、本編で身に付けた資質・能力を評価する「国語の力試し」を巻末に設けてあり、知識・技能と思考力、判断力、表現力等を関連させながら学習が進められるように配慮がなされていると思った。

川 又 委員 A者は、表紙に着目すると、1人の生徒がじっくりと思索する姿が描かれており、1年生では本に囲まれ、2年生では机に向かい、3年生では広い世界に出ていくような場面が描かれており、教科書の中身もそのようになっていると思う。また、次のページからは、著名な評論家による言葉や、言語の重要性に関するエッセイが掲載されており、生徒にとって非常に有用な文章であると思う。現代的な話題である情報やSNS、AIに関して、まとめて取り上げられているところが非常によいと思った。それから、各3冊の巻末では、「『ふるさと』を巡る」というタイトルで、各県別に近代現代の文豪や作家の作品を紹介しているところが非常によいと思う。

B者は、各巻のはじめに20ページ程を使用し、国語の教材の構成や学び方をマトリックスで表示したり、思考ツールに関して詳しく説明したりしている部分が非常に充実している。それから、各教科書の後半では、「文法のまとめ」、「資料編」があり国語に関連する様々な資料をまとめている。ここでは国語に関連する題材として、メモや様々な原稿のツール、議論の方法、辞書の取扱いが非常によくまとめられていると思った。

C者は、大きな特長として、大きな文字と、十分な余白がある紙面の構成となっており、非常に読みやすくすっきりとした紙面となっていると思う。国語の教科書という性格上、テキストをじっくりと読み込むことが必要であるので、この紙面の見やすさは非常に大きな価値があると思う。随所に読書案内や、夏休みにかかる頃には夏休みに薦める本が照会されており、生徒に優れた書籍を推薦する点が非常によくできていると思う。竹取物語、平家物語、奥の細道が各者共通に取り上げられているが、C者の場合には、折り込みのページが充実しており、それぞれの物語について全体像を把握できるようになっていて、また地理的な関係や登場人物の相互関係などがよく分かるようになっていたと思った。

D者は、最初の「学習の見通しをもとう」で、学習全体の構図を分かりやすくマトリックス上に表している。「思考の地図—思考の旅に出かけよう」では、ツールやマ

ッピング、対話、ブレインストーミング、仮説検証のような思考のためのツールが非常によく紹介されている。このD者も文字が大きく少し太めではっきりしており、読みやすいと思った。それから、各学年で「情報×SDGs」があり、最近の話題である様々な情報についての出来事や手法、SDGsというものを掛け合わせた話題が記載されている。

後藤委員 A者は、はじめに日本語の特長についての引用文があり、3年生では日本語を「祖先の文化的遺産の最大のもの」という文章を引用している。日本語、ひいては日本文化を尊重する態度の育成に配慮した内容であると思った。「言葉の小窓」で日本人と外国の友人との会話形式を通して疑問を提示するなど、生徒の興味を引くような工夫がある。また、発展学習を巻末にまとめて、関連するページを矢印で示すなど、工夫があり、よいと思った。

B者は、確かな言葉の力を身に付けるためにどのように取り組むかを理論的に学ぶことができる教科書だと思った。巻頭に、どの題材がどのような技能・知識に重点を置いているかの一覧があることや、順序立てる、比較するなどの思考方法を示し、主体的な学びを促していること、また「学びの道しるべ」で発展的な学習が展開できるような工夫があることなど、生徒が主体的で深い学びを実践するための配慮があると感じた。

C者は、国語を単に読み書きの技術として学ぶにとどまらず、相互理解力の向上により、未来につながる様々な問題を解決しようという姿勢がうかがえる教科書だと思った。「てびき」では、発展的な学習に配慮されており、その中の「言葉の力」では、伝えること、読み解くことという言葉のコミュニケーションによる相互理解を大切にしている。他人を思いやる心が育つような配慮がされている。

D者は、配列やタイトルの言葉遣いが、基本的な学習の理解や発展的な学習の展開につながるような工夫がとても上手にされていると感じた。例えば枕草子はどの教科書でも取り上げているのだが、枕草子を自分ごととして捉える学習では、自分流の枕草子を作ろうという課題が生徒の興味を引くものであり、とても工夫されていると感じた。また、3年生、「つながる古典」では、古典作品を時系列に並べた表があり、別々に学ぶと少し理解しづらいような古典作品も、時系列で一覧表に並べ、学ぶことにより、その時代背景などの理解がスムーズにいくのではないかと思った。そういった子供たちの難しい部分に対して理解を助ける工夫があると思う。また、様々な思考法についても、国語に限らずいろいろな教科で紹介されていると思うが、D者では、その思考法を、思考を広げる、思考を整理する、思考を深めるという3つに分類することにより、生徒たちに分かりやすく伝える工夫があると思った。また、巻末に「語彙ブック」を配置することにより、学習効果も上がるし、発展的な学習や表現力の育成にもつながると考える。

教育長 「国語」については、4者あるので、まず3者に絞っていききたい。推薦する発行者を3者挙げていただきたい。

山田委員 B者、C者、D者。

庄司委員 A者、C者、D者。

長谷川委員 A者、B者、D者。

花渕委員 A者、C者、D者。

川又委員 B者、C者、D者。

後藤委員 B者、C者、D者。

教育長 A者が3、B者が4、C者が5、D者が6となった。B者、C者、D者に絞って議論を進めてまいりたいがいかがか。

(異議なし)

教育長 それでは、このB者、C者、D者について議論をしていききたいと思うが、まずこの3者について事務局に確認したいこと、またご質問、ご意見、ほかの委員からのご指摘を踏まえて、何かあるか。

(質疑なし)

教育長 ないようなので、各委員から1者に絞り込んでいただき、どのような点が優れているか。

るのかも併せて説明いただきながら進めてまいりたい。

山田委員 D者を推薦する。「思考の地図—思考の旅に出かけよう」で、各種チャート図で考え方をまとめる方法が示されていることや、「学びへの扉」で、物語の内容を捉えて理解を深めて自分で考える手順が示されていること、巻末の「語彙ブック」が非常に充実していて、慣用句やことわざ、いろいろな資料が載っているのがよいと思った。

庄司委員 D者を推薦したい。「学びへの扉」で、学習内容の手順がきちんと示され、その後、ICT活用のヒントなどで深い学びにつなげられるような工夫があると感じた。

長谷川委員 D者である。非常に見やすい体裁だと思う。紙の色も少し柔らかい色合いで、読みやすいというのは、本は楽しいと思わせる、仕掛けにもつながるのではないかと思う。

花淵委員 D者がいいと思う。中学1年生の教科書では小学校で習ったことを確認する教材が掲載されており、3年生になると論説や古典分野において高等学校への橋渡しとなるような教材が掲載されている。小中、それから中高の橋渡し、連携を意識したスムーズな接続を図る意味でもD者がいいのではないかと考えている。

川又委員 私はC者を推薦する。C者の一つの特長としては、やはり余白が十分にあり、大きな文字を使っている。それから読みやすいすっきりとした紙面で、国語という性格上、テキストにじっくりと長時間向き合わないといけないため、非常に大きなメリット、優位性があると考えた。

また、いろいろなところに「読書案内」があり、ここに文芸作品だけではなく、様々な評論や記録に関しての本が掲載されていること、また夏休みにお薦めの本も、生徒が学習を進める上では重要な内容になっていると思う。

後藤委員 D者を推薦する。理由としては、「自分流『枕草子』を書こう」で生徒の興味を引くなど声掛けの仕方が優れていると思った。また、「つながる古典」の時系列の表や、思考方法を広げる、整理する、深める、に分類することにより、子どもたちに分かりやすく伝えられるのではないかと思う。また、配列についても、巻末の「語彙ブック」でまとめて掲載する方法は学習効果が上がり、発展的な学習や表現力の育成につながると考えるからである。

教育長 皆様のご議論を概観すると、D者については、小学校、高校との橋渡しが意識されていること、配列がよく、特に巻末の「語彙ブック」の点について評価が高いというご指摘があった。そのほかに、思考の地図チャートや、自分で考えること、それから学習の見通しがうまく立てられているのではないかと、体裁が非常に見やすいものであり、紙の色もよいのではないかとご指摘があった。

一方、C者については、大きな文字、レイアウト、余白の部分の使い方が優れている点、それから、読書案内、例えば学習の進度に従ってちょうど夏休みの時期に夏休みの読書の案内が掲載されているという点などが優れているのではないかとご議論があったところである。

今ほどのお話を各委員からお伺いして、なにか発言はあるか。C者を推された川又委員は何かご意見はあるか。

川又委員 C者もD者も紙面の構成として非常に読みやすくなっていると思うので、D者でも、テキストを読み込むという点でいうと特に問題ないと思う。

教育長 そのほか何か加えてのご発言はあるか。

それでは、皆さんおおむねD者ということでご意見がまとまったようであるので、D者ということでよろしいか。

(異議なし)

教育長 それでは、「国語」については、D者ということで今ご議論いただいた内容を採択理由として、事務局で整理の上、7月26日に最終の決定をさせていただきたいと思う。

【書写】

教育長 次に、「書写」について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事から説明する。

指導主事 中学校「書写」では、国語科と同様、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

(3) 言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

以上3点を目標としている。

協議会において取りまとめた中学校「書写」の全発行者の特長は、別添2の29ページにお示ししている。

主な特長について、A者は、各学年の内容が段階的に整理されており、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるように配慮されているということである。

B者は、文字に関するコラムが多数掲載されており、基礎的・基本的な内容の確実な習得と発展的な学習が展開できる配列となっているということである。

C者は、実際の生活場面と関連する内容が豊富で、文字文化との関わりについて幅広く学ぶことができるように工夫されているということである。

D者は、筆の運びを図で分かりやすく示して説明するなど、基礎的・基本的な技能の習得につながるように配慮されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何か委員からご質問あるか。
(質疑なし)

教 育 長 ないようであるので、各委員から、各教科書見本本についてご意見をいただきたい。

庄 司 委 員 A者は、「文字を「書く」ってなんだろう」で、書写を学ぶ意義について考えられるようになってきている。キャラクターのコウゾさんの吹き出しが、そのページで意識する点を示していて、自主的に取り組めるようになってきている。また、朱筆で筆の入り方や筆の動きなどについて記載されており、とても分かりやすいと感じた。「書写テストに挑戦！」では、学んだことをテスト形式で振り返りながら、基礎的・基本的な内容の定着が図れるように工夫されていると思う。

B者は、コラムが多数掲載され、文字に関する興味・関心を持ち、基礎的・基本的な内容の習得に加え、その先の発展的な学習にもつなげられるような工夫があると感じた。「学習活動や日常生活に生かして書こう」にある「さまざまな各場面」では、書写の学習で身に付けた力を、それぞれの場面に応じて、自分の考えを広げ、対話的な活動につなげるような工夫があると感じた。

C者は、朱筆で筆の動きや書き方がとても丁寧で分かりやすく示されていて、基礎的・基本的な内容の取得に工夫されている。「書いて身につけよう」の中に、毛筆で身に付けた知識や技術を硬筆で生かすことを促す言葉の記載があり、繰り返し学習が進められるような工夫があるところがいいと思った。

D者は、「学習の進め方」で、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の流れを示すことで主体的に学習に取り組めるような工夫がある。こちらも筆遣いは朱筆で丁寧に筆の入り方や動きなどの説明があり、大変分かりやすい。国語やほかの教科との関連なども示されていて、活用につながるような工夫があると感じた。「書写ブック」は取り外せる別冊資料になっていて、毛筆で学んだことを硬筆に生かし、繰り返し学ぶことで書く力を身に付けることに取り組みやすいような内容になっている。

長谷川 委 員 A者について、3年間の学びの方向性、そして学年ごとの目標設定が非常に明確に示されていて学びやすいと思う。話合い活動ができるようなコーナーも用意されているのが特長だと思う。

B者について、活用を大切にしている印象を受けた。また、資料として、歴史上の人物や、いろいろな書体を使った作品などが豊富に載っており、生徒の興味・関心を引くと思う。

C者について、シンプルで分かりやすい作りだという印象である。実際の生活場面

と関連する内容が豊富だと思った。

D者について、はじめに別冊「書写ブック」がとじ込まれていて、外して使うのだろうが、とても充実していて、教科書全体が資料としてとてもボリュームがある印象である。ICTの効果的な活用についても紹介がされていて、配慮があると思った。

花 瀨 委 員 A者は、仙台市が自分づくり教育を推進する中で、職場体験を経験するのだが、お礼状の書き方など、学校生活に密着したものが取り上げられていて、書写の授業で学んだことをすぐに生かすことができるような工夫が見られる。

B者は、「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」「学習や日常生活に生かそう」の順で教材が構成されていて、知識・技能で終わることなく、活用する力の習得に向けて段階的に学習ができるような工夫がなされていたと思う。

C者は、筆や鉛筆をモチーフにした親しみやすいキャラクターを使用しており、知識・技能の理解や習得がスムーズに行われるように配慮されていると思った。

D者は、1教材1事項で構成し、「学びのカギ」でポイントを焦点化することで、効率的に学習ができるように配慮されていると思った。

川 又 委 員 A者は、1年、2年、3年という進み方の中で、1年生では身に付ける、2年生では使い分ける、3年生では使いこなすというような段階的な目標を明示して、学習がしやすくなっていると思う。また、いろいろな書写に関連する、書くこととして、本のポップを書こうなど、身近な書くことに関しての実習や例題が非常に多くあると感じた。

B者について、生徒は学びや生活の中で、書写に関連する様々なことに触れることがあるが、原稿用紙、入学願書、志願理由書、はがき、電子メール、包み紙等の生活に密着した具体例を多く取り上げていると思った。また、コラムやエッセイという形で書写に関連する様々な話題を取り上げている。墨の製造方法、掛け軸、名筆、書に関しての芸術が紹介されているのが文化的なところで有益かと思う。

C者は、生徒が書き込んで学んでいくための欄が多数用意されていると思った。書き込みの例としては、レポートや、都道府県名、はがき、手紙などに書き込みができるようになっている。それから、現代的な書写として、ポスター、看板、ペンキ、タイプデザイン、企画書づくりなど、身近な仕事に関連する話題が多く取り上げられている。

D者は、全体が165ページにわたり非常に厚い教科書の構成になっている。この中で特に目立ったところは、別冊の「書写ブック」で、これを用いて様々な実習ができるようになっている。はがきの書き方、都道府県名の書き方、文学として万葉、古今集、奥の細道、走れメロスを実際に生徒が書いて学ぶ点が充実していると思った。

後 藤 委 員 A者は、「一年 身に付ける」「二年 使い分ける」「三年 使いこなす」と示すなど、学年に応じて内容を発展させていると思った。生活の中で書写を活用するシーンや身の回りの例を豊富に掲載しており、書写を身近に感じさせ、興味・関心を大切に、実践的な学びへとつなげていると思う。

B者は、初めて触れる行書の指導が丁寧に行われており、配慮が感じられた。書写で利用する道具や、我が国固有の文化について学ぶ内容が充実しており、我が国の歴史文化を愛し、守り、伝えていく態度の育成に適していると思う。

C者は、身の回りのことや、現代社会における書写の活用において、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、主体的な学習が行われるように配慮されていると思った。

D者は、「書写ブック」を巻頭に配置し、各学年の初めに基礎を振り返るようにしており、学習の振り返りと定着に有効であると思う。また、行書と楷書を並列表記し、見比べることにより、理解が深められると感じた。

山 田 委 員 A者は、字形やバランスについて説明されており、各ページのお手本に中心線があり、全体のバランスを見ながら書くことが示されている。筆遣いもそれぞれのお手本に点線がついており、分かりやすく示されている。また、「書写活用ブック」には、手紙や職場体験に使える依頼文や報告文などの作成の仕方、またポスターやリーフレット、願書など様々な書類の書き方が説明されている。

B者は、筆の使い方、払い、曲がりなどが図で分かりやすく示されている。右にお手本、左に筆遣いを示し分かりやすい配置になっていると思う。「書式の教室」に、手紙やはがき、年賀状、願書、エアメールの書き方まで紹介されている。

C者も、筆の使い方や払い、曲がりなどが図で分かりやすく示され、左にお手本、右に注意ポイントが見開きで分かるようになっている。また、資料に手紙やはがき、のし袋、願書など生活場面と関連する内容が豊富に掲載されている。

D者は、先ほどから何回か話が出ているが、「書写ブック」が付録でついていて、1、2、3学年、それぞれ学習する内容を繰り返し書くことで身に付けることができるようになっている。また、手本がページの左右ではなく、次のページに見開きで入れることで、筆遣いなどの図が大きく見やすくなっていると思う。また、楷書と行書の比較を並べて違いが分かりやすく、筆遣いのポイントも大きな図で示されていて見やすいという特長がある。ほかの教科書にもあったと思うが、町なかにあるフォントや、ユニバーサルデザインなどについての言及があるのもよいと思った。

教 育 長 皆さんからご意見いただいた。4者であるため、3者に絞ってまいりたい。3者について挙げていただければと思う。

庄 司 委 員 A者、B者、D者。

長谷川 委 員 A者、B者、D者。

花 淵 委 員 A者、B者、D者。

川 又 委 員 A者、C者、D者。

後 藤 委 員 A者、B者、D者。

山 田 委 員 A者、B者、D者。

教 育 長 A者が6、B者が5、C者が1、D者が6になっている。

A者、B者、D者の3者で今後の議論を進めてまいりたいと思うが、よろしいか。

(異議なし)

教 育 長 では、A者、B者、D者で、何かさらに事務局等に確認したいこと、ほかの委員からのご意見を踏まえてさらに確認したいところとかあればお願いしたい。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、ここから1者に絞り込んでまいりたい。1者に絞り込んだ上で、さらなるご意見をいただければと思う。

庄 司 委 員 D者を推薦する。A者とD者ですごく迷ったが、どちらとも例えば毛筆であったら筆遣いが本当に丁寧であり、筆の入り方や動きなどの説明が大変分かりやすいと感じた。D者は「書写ブック」が取り外せる別冊資料になっていることが、非常によいと思う。やはり毛筆で学んだことが硬筆に生かされ、書く力を身に付けることに役立つと感じた。

長谷川 委 員 D者を推薦する。先ほどから何度も出ている「書写ブック」がよいということ、ほかの教科書とも重複しているが、文字の歴史や、充実した内容、資料がたくさんあるところがよいと思う。

花 淵 委 員 D者がいいと思う。楷書と行書それぞれ1年生、2年生で、朱墨と薄墨を使い、折れ、はね、払いなどを非常に詳しく、分かりやすく見やすく示してあり、これによって運筆であったり、筆圧であったり、筆の穂先の動かし方などが手に取るように分かるという工夫が大変いい。

川 又 委 員 D者を推薦する。D者の「書写ブック」の話が皆さんから出ているが、やはりこの「書写ブック」でいろいろな形で数多くの実習ができると思った。特に、万葉集や、古今和歌集、奥の細道、走れメロスなどを読んで味わうだけではなく、自分で書き、味わっていくことはとても重要なことであると思う。

後 藤 委 員 D者を推薦する。理由としては、やはり筆の使い方の説明がとても詳しく、筆を置くだけではなく、どの程度の量の筆を押しつけるかという筆圧の説明までも、誰が見ても分かるような図で丁寧に説明してあり、子供が筆を使うときに、この説明の仕方がとても分かりやすいと思う。

山 田 委 員 D者を推薦する。先ほどから、いろいろな意見が出ているが、私も楷書と行書の比較が並べて示されていて非常に分かりやすいと感じた。筆遣いが大きな図で、リズム

や力の入れ方が分かりやすく示されている。先ほども話したが、いろいろなフォントや、ユニバーサルデザインなどにも触れているという点がいいと思った。

教 育 長 全委員、D者がよろしいということであった。その理由としては、行書、楷書が比較されて分かりやすく、それから別冊の「書写ブック」が非常に有効であり、現代の生活や、実習に結びつくものがあるということ、筆遣いの説明が非常に分かりやすいということで、リズムや筆圧が可視化されているというようなご指摘があった。以上のことから、D者ということによろしいか。

(異議なし)

教 育 長 「書写」については、D者ということで、今ほどご議論いただいた内容を採択理由として、事務局で整理の上、7月26日に最終的に決定したいと思う。

それでは、ここで15分程度、10時15分まで休憩したいと思う。

(休憩 午前9時56分～午前10時15分)

教 育 長 それでは、協議を再開する。

【英語】

教 育 長 次に、「英語」について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事から説明する。

指 導 主 事 中学校「英語」では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指している。

(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにすること。

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養うこと。

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

以上のことを目標としている。

協議会において取りまとめた中学校英語の全発行者の特長は、別添2の31、32ページにお示ししている。

主な特長について、まずA者は、生徒の興味・関心を引く話題や異文化の話題、他教科と関連した内容を通して、多様なものの見方・考え方に触れることにつながるように配慮されているということである。

次に、B者は、各単元のまとめではその単元で学んだことの実際の活用場面を想定した活動を設定し、言語活動を通して、基礎的・基本的な力から発展的な力の習得につながるように工夫されているということである。

次に、C者は、巻末の帯教材を通して、学んだことを活用して自己表現するなど、伝える目的を明確にした言語活動に継続して取り組み、その充実につながるように配慮されているということである。

次に、D者は「For Self-Study」で、英語の上達のコツが確認でき、また巻末の「資料」も充実しており、様々な生徒が興味・関心を持って、主体的に学習に取り組めるように工夫されているということである。

次に、E者は、様々な外国の文化や個性豊かな登場人物、盲導犬や環境問題など多岐にわたる内容を取り上げ、多様性への理解につながるように配慮されているという

ことである。

次に、F者は、「Stage Activity」では、目的・場面・状況が設定されており、それに応じた表現を思考する過程が段階的に身に付くように工夫されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問はあるか。

川 又 委 員 一般的な質問だが、中学校の英語教育の中で、人名の呼び方はどのように扱われているのか。従来は、夏目漱石だったら Soseki Natsume というように書くケースが多かったと思うのであるが、最近の取扱い方はどうなっているか。

指 導 主 事 原則としては、姓、名の順で表記することとなっている。理由としては、グローバル社会の進展に伴い、人類の持つ言語や文化の多様性を人類全体が意識し、生かしていくことがますます重要となっており、このような観点から、日本人の姓名のローマ字表記については、姓、名という日本の伝統に即した表記としていくことが大切であるとされている。

川 又 委 員 追加で伺いたい。日本人の姓名はそうであるが、他の国、他の文化圏の方の名前については、その人が呼んでほしい名前の順で呼ぶのか。

指 導 主 事 そのような形で捉えて大丈夫だと思う。

川 又 委 員 分かった。

教 育 長 ほかにご質問はあるか。

(質疑なし)

教 育 長 なければ、それぞれの教科書見本本についてご意見をいただきたく思う。

長谷川 委 員 A者は、教科書内でLet'sからはじまる活動の言語活動が充実していると感じた。表現力を伸ばす工夫がなされている。1、2年生は聞くこと、話すことに重きが置かれ、3年生では読むことが充実していると思う。

B者については、はじめに見て、外国の語学教材のようだと感じた。その理由を考えると、まず、イラストや写真などがとても大きく見やすく、興味を引くものであるということ。次に、紹介されている活動が生徒にとってとても興味深い内容、面白い内容であること。その点から非常にグローバルな印象を受けた。どの学年も、4技能をバランスよく配置しており、総合的に取り組めるような構成になっている。

C者については、英語が使えるようになることを大切にしている教科書だと感じた。「英語の学び方ガイド」があり、「You're the Writer!」でセリフの続きを考えさせる取組は、応用的で、生徒の意欲を高めるコーナーだと思う。

D者については、この教科書も4技能をバランスよく配置していると思う。「For Self-study」で英語の上達のコツが紹介されていて、非常によい取組だと思う。

E者については、コミュニケーションを大切にしている教科書だと感じた。外国語で何ができるのかの観点で、CAN-DO リストも作られているし、置き換え練習や、応答から会話を広げるコツの紹介などもあることから、コミュニケーションを大切にしていると感じた。

F者については、様々な興味深いコーナーがある。巻末付録として、「語順カード」や「帯活動用 Small Talk 即興で伝え合おう」「Small Talk」、「学び方コーナー」で、発音についても大きく取り上げて紹介されている。

花 岡 委 員 A者は、単元を通して、インプットとアウトプットの活動が設定されていて、身に付けた知識・技能を活用させながら、さらに深い学びにつながるような言語活動を設定していると思った。

B者は、「Step」では、マッピングや文章の構成、ディスカッションの進め方など、英語学習において有用な手だてを系統的に扱っており、主体的、対話的に学ぶ工夫がされていると思った。

C者は、長谷川委員と同じように、「You're the Writer!」が非常に素晴らしいと思い、目的や場面、状況などに応じて、思考力、判断力、表現力などを働かせる工夫がしてあると思った。

D者は、各単元が「Part」と「Goal Activity」で構成されており、知識・技能や思考力、判断力、表現力などを積み重ねられるように、言語材料や言語活動が配置され

ていると思った。

E者は、「Task」と「Grammar」で基礎的・基本的な力を習得し、「Project」で既習の知識、技能を活用しながら、読む、聞く、話す、書く力が統合的に身に付くように工夫されていると思った。

F者は、「Unit」「Real Life English」「Stage Activiy」と段階的に学び、知識・技能の習得と活用を繰り返しながら、思考力、判断力、表現力を育成する工夫がなされていると感じた。

川 又 委 員 A者は、「Project」で自己紹介、会話、スピーチ、レポート作成と様々な演習を行う構成になっており、これがとてもよいと思う。文法については、「Focus on Form」にbe動詞や名詞、過去形、進行形などの文法的事項がよくまとめられていると思う。紙面が見やすく、文字の配列も非常に分かりやすいという印象を持ち、内容が他の者に比べて幾分高度になっているとも思った。

B者は、文字が非常に大きく、また1文1文が短くなっていて、学びやすい記述になっている。大きなイラストが多数配置されており、余白も大きく、書き込んで勉強がしやすい面がある。付録として、カードを使った英語の勉強方法や遊びができるようになっていて、これが効果的に使えると思う。

C者は、1年生のはじめ、25ページ辺りまでを、教科書のスタートページとしており、これが非常に楽しく分かりやすい作りになっていると思う。いろいろなイラストに統一感があり、明るく分かりやすい紙面になっていると思った。

D者は、はじめに「Starter」があり、英語の入門となる内容が本当に優しく楽しく表現されている。「Language Focus」で、文法を非常によく整理してまとめている。また、様々なコラムがあり、平等、人権、平和、民族というような最近の世界的な話題、課題に関して多くの題材が取り上げられている。

E者は、1年生のはじめの20ページまでに、小学校からの英語の復習と、中学校での入門を兼ねたページがあり、とても分かりやすいと感じた。日本文化の様々な事例、世界の様々な文化的な事例を英語によって表現し、紹介されている。E者は、余白が十分ある紙面になっており、書き込みによる学習がしやすいと感じた。

F者は、はじめの10ページが入門編になっており、ここで小学校からの英語学習がとても楽しく分かりやすく取り組めるようになっていて、付録の「語順カード」を利用して、英語の語順や文法が分かりやすく学べるようになっていて、また、海外への旅行、海外での活動、留学を題材にして、世界の広がりを見せている。F者の特長として、3年生の後半では、ユニットごとに重要なテーマを設けて、それを英語で学ぶ構成となっている。例えば、日本文化、動物保護、防災、人権、平和、国際協力を扱うユニットを数多く設けて、社会に関する問題意識を醸成しながら、英語で勉強する構成になっている。

後 藤 委 員 A者は、「Let's Talk」の会話文で使用されている英語の表現がシチュエーションに合った実践的なものであり、有用性が高いと感じた。3年生の「単語を覚えるコツ」も、英語学習には重要であり、知識の定着に効果が高いと思われる。

B者は、中学校での生活や身の回りのことを題材にしており、身近な話題で親近感を持って取り組めるような配慮があると思った。レイアウトが見やすく分かりやすいように作られている。

C者は、「Active Words」で語彙を増やして、「Let's Talk」で会話を促していると思った。言語活動が充実するための学習が展開できるように配慮されている教科書だと思う。

D者は、漫画や落語など、豊富な題材を取りそろえており、英語学習に対して興味・関心を持って学べるような工夫があると思った。とてもバランスがいいと思った。

E者は、「Think & Try!」で、自分で考えた英文を作らせるように配慮されており、自分で文章を作ることで主体的な学び、表現力の育成につながっていると思う。3年生の「効果的な英語学習法」は、英単語の仕組みを学ぶ上で重要だと思った。

F者は、「Grammar for Communication」が分かりやすく、基礎・基本的な学習の定着が図れるように配慮されていると思う。「Sounds and Letters」の内容も、要点を

押さえており、必要な知識の習得に効果が高いと思った。3年生のUnit 1で日本のポップカルチャーを取り上げており、現代的でとてもよい視点だと思う。

山田委員 A者は、各パートが見開きで完結していて、はじめに聞く「Listen」から、「Speak」、「Write」の3つが1つのパートの見開きに載っているのは分かりやすく、見やすい。また、最後に「Think & Write」などのまとめのページがあり、「Step 1」「Step 2」「Step 3」で無理なく順番にまとめられるようになっている。その後に、「Focus on Form」で文法について詳しい説明があり、知識を整理して定着できる流れがよいと思う。また、「Project」で、各テーマに沿ってまとめたことを、クラスやグループで発表することができ、自己表現をする力を育む工夫がされていると思った。

B者は、「Scenes」のはじめに漫画があり、その場でどのような内容の話をしているのか想像することから入るのがよいと思う。「Action」で文章を作成するために1ページを使用しており、「Step 1」「Step 2」「Step 3」と順に進めることで文章をつくれるようになっているのがよいと思う。それから、「英語早わかり」で、英語の構文や基本的な文法が示されている。主語や動詞が色分けされて分かりやすく表示されている。「Our Project」が幾つかあり、スピーチを行うための原稿を作成し、発表する流れで、積極的に自己表現ができるような工夫がされている。

C者は、「Unit」はじめのページに、関係するイラストや写真が見開きで掲載されていて、ストーリーの大まかな内容を予想するところから入るのがよいと思う。「英語の学び方ガイド」に辞書の使い方や自分の意見をわかりやすく伝えるコツ、英文を書くコツ、聞く、話す、書くときのコツなどが記載されており、この教科書の特長であると思った。また、題材として修学旅行や合唱コンクール、盲導犬、災害、海外の文化や生活などと幅広く取り上げられているのがよいと思う。

D者は、小学校から中学校への学習のつながりが丁寧で分かりやすく英語の学習に入れると思った。「Take Action!」に、道案内やフードコートでの注文など、生活に活用できる場面が取り上げられているのがよいと思った。また、「For Self-study」で学ぶコツが示されていることがよいと思う。

E者も、小学校から中学校の接続が丁寧に振り返りをしながら進められている。また、各章の学習の後に「Task」があり、自分で英作文を作成するところが2ページほどあり、その後、「Grammar」でその章で学んだ文法を整理し知識の定着を図る、という順になっているのはよいと思う。また、同じく「Project」で、各テーマに沿って自分の発表をまとめてクラスで発表するという工夫ができてよいと思った。

F者は、夏休み前まで小学校の学習内容の復習となっている。その後、長文や、新しい表現を取り上げていく流れがよい。1年生では単語や文をきれいに書く、単語を増やす、発音に注意するなど英語の基礎的な点に重点を置き、2年生では、読み方、伝え方を学習し、3年生では言いたいことを適切に伝える、まとまりのある文章を書くなど、徐々にステップアップしていく流れになっているのがよいと思う。また、海外の文化や環境問題、東日本大震災なども題材として取り上げている点が良いと思った。先ほどもあったが、「Sounds and Letters」で、英語の音を学ぶ、単語ごとの読み方の違いを知る。「Grammar for Communication」で英語の構文について学ぶことで、基本的な文法を身に付けることができ、単語の発音や文法を重視しているという印象を受けた。

庄司委員 A者は、見開きで左ページが本文、右ページは活動になっていて、3年間同じ構成になっている。防災や合唱コンクールなど、身近な教材も取り上げられていて、他の教科との関連にも配慮がされていると感じた。

B者は、記入するページの余白も大きく、書き込みしやすいと感じた。巻末にある「Can-Do リスト」で単元ごとに目標が達成できたかどうかを自己評価し、書き込む箇所があり、学びをページごとに振り返ることができるように工夫されていると感じた。また、職場体験など、日常や学校生活についての内容が多く取り上げられており、大変取り組みやすい工夫が感じられた。

C者は、見開きで本文、聞く、読む、話す、書くの活動の配置になっている。聞く、読む、話す、書くの学習活動の積み重ねが、言語活動につながるような工夫が感じら

れた。

D者は、各レッスンでは目標が示されており、基本的内容を繰り返し練習することで知識・技能が定着されるように工夫されている。また、各ページは、手書きに近い書体でとても見やすく書きやすいと感じた。

E者は、レッスンごとに読む、聞く、話す、書く力の積み上げを図り、「Project」では、グループ学習、表現活動ができるように工夫されていると感じた。また、SDGsや地球温暖化など、ほかの教科との関連のある教材も大変多く、学びを深めることができるように工夫されていると感じた。

F者は、はじめにゴールが示されていて、学びの見通しを持ち、主体的に学習に取り組めるようになっている。「Activity」では、言語活動の設定があり、スモールステップで繰り返し取り組むことで、知識・技能が定着するような工夫がされていると感じた。また、書く活動のページでは、手書きに近い書体が使われ、大変見やすく、生徒も書きやすいのではないかと感じた。

教 育 長 「英語」については6者あるので、まずは3者に絞ってまいりたい。3者についてそれぞれの委員からご推薦をしていただきたいと思う。

長谷川 委 員 C者、D者、F者。

花 淵 委 員 B者、D者、F者。

川 又 委 員 B者、D者、F者。

後 藤 委 員 A者、E者、F者。

山 田 委 員 A者、C者、F者。

庄 司 委 員 A者、B者、F者。

教 育 長 A者が3、B者が3、C者が2、D者が3、E者が1、F者が6になった。上位、一番多く推薦を集めたのはF者であるが、次の、A者、B者、D者がそれぞれ同数であった。このままA者、B者、D者、そしてF者の4者で話を進めていきたいと思うが、よろしいか。

(異議なし)

教 育 長 では、次の段階として、A者、B者、D者、F者について議論をしていきたいと思うが、まずは事務局に何か質問等あれば伺う。ほかの委員の意見を聞いて、それに対する質問など、何かあれば伺う。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、1者に絞り込むとともに、その理由についても述べていただければと思う。

長谷川 委 員 4者ともそれぞれに特長があって素晴らしい教科書だと思う。その上で、私はF者を推薦する。その理由として、特に3年生の教科書で扱う内容が、現代的で社会的な問題を扱っている。英語を学ぶことを越えて、英語で学ぶことを目指せる教科書だと思った。F者を推薦する。

花 淵 委 員 私はF者を推薦したいと思う。文章を書いたり言葉を話したりする際に用いる、いわゆる発信語彙を繰り返し提示している。既習事項をスパイラルに学習できる構成になっていて、単元の終わりには相手を重視した統合的な活動が設定されており、使える英語が身に付くのではないかと。F者がいいと思う。

川 又 委 員 私は、B者を推薦したいと思う。B者の教科書の特長として、文字が比較的大きく、文も比較的短くなっているように感じる。イラストも大きく多数配置されているが、余白も十分にあり、生徒が書き込みながら学ぶスタイルが取れると思う。また、巻末に英語のカードがあり、これを使った遊びや学びができるように工夫されている。B者を推薦する。

後 藤 委 員 私はF者を推薦する。理由としては、「Grammar for Communication」が分かりやすく、基本的な学習の定着が図れる点、「Sounds and Letters」の内容が要点を押さえていて、明確に必要な知識の習得に効果がある点、取り上げている題材が現代的で、用いている言葉などがとても実践的で応用が利く、発展的な学習が可能であるという点である。

山 田 委 員 私も、この中ではF者を推薦したいと思う。どの教科書も非常によくまとまってい

て、英語を学ぶという方向性が分かりやすく示されているとうが、F者は一番バランスがよく、段階を踏んで学べると感じた。「Grammar for Communication」では英語の構文や基本的な文法、「Sounds and Letters」では発音を取り上げており、それらを重視している感じがする。この先、高等学校や大学への進学を意識したときにも重要であると思う。また、海外の文化や、環境問題、東日本大震災などを取り上げていて、英語を通じて総合的な学びをすることができるというところがよいと思った。

庄 司 委 員 英語の読む、聞く、話す、書くといった力の積み重ねで、私はF者が一番いいと思った。特に、英語の言語活動で、繰り返し取り組むことで、知識や技能が確実に定着するように工夫されていると感じた。

教 育 長 F者について支持される方が多かったように思うが、その中でもまず、現代的な課題が取り上げられているということ、経済的な課題だけではなくて、例えば文化的なJポップなどの現代的な文化的現象なども取り上げられている。文法であったり、発音が非常に分かりやすく示されている。また、段階的に繰り返し学習が積み重ねられるようになってきている点にご評価があった。

一方、B者については、文字が大きく、1文が比較的短いように感じられること。イラストも重視されている点。書き込みができるような余白があるといった点。それからカードを使った学びなどについても評価できるのではないかというご意見があった。

ご議論を踏まえて、また何かご発言あるか。

川又委員からB者を推薦いただいていたが、川又委員から何かご発言あるか。

川 又 委 員 特にない。

教 育 長 おおむね皆様のご意見としてはF者ということでまとまっているように思うが、F者ということで、候補としてよろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「英語」については、ご議論いただいた内容を採択理由として、事務局で整理の上、7月26日に最終的に決定したいと思う。

以上で、本日の協議を終了したいと思う。次回、7月22日月曜日は、中学校教科書の「数学」、「技術・家庭（技術分野）」、「技術・家庭（技術分野）」、「保健体育」及び特別支援学校、特別支援学級の一般図書、文部科学省著作教科書採択についての協議を行う。

以上をもって本日の臨時教育委員会を閉会とする。

4 閉 会